

# 高力 直寛

(こうりき なおひろ)

慶応元年（1865）～ 昭和12年（1937）

松山藩士の屋代敬兵衛の四男として生まれ、後に高力家の養子となる。17歳の時に単身山田郡桐生町(現群馬県桐生市)に行き、森山芳平の下で織物技術の勉強をはじめ。修行二年目となる明治17年には早くも群馬県より織工技術で一等賞を授与され、その高い技術力が評価された。明治19年、京都西陣の佐倉常七に当時最新織機であるジャガード機による織物技術を学んだ。

明治20年、高力直寛は当時日本の輸出品の中で人気のあった羽二重の製法を教えるために福井に赴き、3週間にわたる講習会で集まった女工たちに羽二重織の技術を教授した。この講習会をきっかけに福井で羽二重生産がはじまり、福井が繊維王国となる礎を築いた。

その後、高力直寛は教育界に進み、東京高等工業学校(現在の東京工業大学)教授、群馬県立織物学校(現在の群馬大学工学部)や京都市染織学校(現在の京都市立洛陽工業高等学校)の校長を歴任し、織物界の重鎮として技術者の教育に力を注いだ。